

# 第3回 沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

## 沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業

令和7年7月16日  
沖縄県企画部交通政策課

# 1. 令和6年度の事業概要について

## (1) 事業のねらい

- 国が進める沖縄リ・デザインの取組と連携し、本年度は本島全域で大学生や高校生等へのワークショップ・アンケート、移動困難者へのヒアリング・アンケートを実施し、多くのペルソナ※の声が反映された『県民等が望む移動・交通の姿』(暫定版)を取りまとめる。
- R7年度以降、本事業を発展的に推進し『県民等が望む移動・交通の姿』を取りまとめ、R8年度の具体的な実証実験等に繋げることで、沖縄県地域公共交通計画の実現に寄与する公共交通施策の推進を目指す。

※具体的あるいは典型的な人物像の意、スペイン語では人や人格、ラテン語では仮面

## (2) 事業の実施概要

### 大学生等へのワークショップ

これからの沖縄社会を担う学生世代を対象に、各圏域での日常生活や様々なペルソナも意識した中で、県民等が望む移動・交通の姿を探るためのワークショップを実施

#### 対象

【北部圏】 名桜大学約 30名  
沖縄高専約 80名

【中部圏】 琉球大学約110名

【南部圏】 沖縄大学約110名

**合計 約330名**

※各WS 2回の延べ人数、傍聴学生含む

### 高校生等へのアート・ワークショップ

全県立高校の生徒・保護者を対象に、日常生活での通学に着目し、通学に必要な交通や送迎に関するアンケートを実施

#### 対象

全県立高校51校（全日制在校生約3.6万人）  
の約4割弱の高校生と保護者から回答  
高校生 約13,300名  
保護者約 2,200名

※県立高校数と生徒数はR6沖縄県学校基本統計速報より



送迎交通による渋滞への影響が顕著な中部圏、南部圏の高校を対象に、望む移動・交通の姿を探るためのワークショップを実施

#### 対象

【中部圏】 普天間高校 約30名  
【南部圏】 浦添高校 約30名

### 移動困難者等へのヒアリング・アンケート

様々な移動困難者（高齢者、若年妊娠婦、一般妊娠婦、身体障がい者）からみた、県民等が望む移動・交通の姿を探ることを目的に、ヒアリング・アンケートを実施

#### 対象

##### ○ヒアリング

【北部圏】 高齢者 約20名

【中部圏】 若年妊娠婦 約10名

【南部圏】 身体障がい者 約30名

※各団体イベント、施設来訪者に協力依頼

##### ○アンケート

【中部圏】 一般妊娠婦約170名

※自治体での定期健康診断時等に協力依頼

## 2. 持続可能な沖縄社会構築に向けた移動・交通に関する課題

### 県民等全体に共通する課題

様々な県民等の声から想定される共通した課題は、①移動コスト（移動コストの低減又は必要な支援の拡充）、②移動時間（移動の確実性の確保及び渋滞による時間損失・負担の低減）、③安心と安全性（安心と安全性が確保された移動環境の整備）の3点が重要な課題と考えられる。

#### ①移動コスト (移動コストの低減又は必要な支援の拡充)

移動するためのコストに関しては、限られた所得の中で車に大きく依存せざるを得ない社会となっているため、燃料費や維持費の負担が、県民の日常生活に影響を与えている。

さらに、公共交通と自動車の間での移動支払い額の開きがあることや、公共交通コストの実費負担額が大きいことも、車に依存せざるを得ない社会を形成している大きな要因であり、沖縄の社会全体で取組むべき大きな課題と考えられる。

#### ②移動時間 (移動の確実性の確保及び渋滞による時間損失・負担の低減)

移動における時間損失に関しては、まさに全国ワーストの道路の渋滞であり、これによるバスの走行性、運行の確実性が確保できていない大きな要因の一つとなっている。

無駄のない確実な移動時間の確保は、沖縄の労働生産性向上を図るためにも重要であるほか、高校通学をはじめ、就業者や多くの世代で、バスの信頼性を高めることにも繋がるため、沖縄で取組むべき必須課題と考えられる。

#### ③安心と安全性 (安心と安全性が確保された移動環境の整備)

安心と安全性に関しては、移動困難者に対応したバリアフリー化の拡充はもとより、こどもから高齢者まで安心して移動できる移動環境を整えることが課題であり、支援の面でも様々な関連分野との連携が求めらる。これは、高齢化社会での交通安全の確保にもつながり、その他治安・教育・福祉・まちづくり等の分野との連携により安全・安心な移動のしやすさを向上していくことが、沖縄の基本的な課題と考えられる。

### 3. 令和7年度の事業イメージ

- 令和6年度は学生を中心に、移動困難者等を含めた「県民等が望む移動・交通の姿」を取りまとめるため、ワークショップやヒアリング等で県民の意見を収集し、課題等を整理した一方で、日々通勤する企業勤務者や県外からの観光客の移動・交通に関する意見が収集できていない。
  - このため、令和7年度は企業勤務者及び観光客等の意見を収集し、沖縄の交通環境に関わる住民等の幅広い意見の集約を図る。
  - これにより、沖縄交通リ・デザイン実現に向けた課題を総合的に整理し、「県民等が望む移動・交通の姿」を作成するとともに、令和8年度の実証実験の展開を目指す。

	企業勤務者	観光客（移動困難者等）
圏域	中南部圏域	本島全県域
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の政令指定都市と同規模の人口、密度である一方で、公共交通基盤が極めて脆弱な中に都市が集積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光施設が離散しており、公共交通利用を前提としたまちづくりや交通環境構築が不十分</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>慢性的な交通渋滞により、労働生産性の低下などの問題           <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 過度なマイカー利用から適度な公共交通利用への行動変容を促すとともに、安定的・継続的に実現させるための公共交通の基盤構築が必要。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日あたり平均観光客数は約10万人(2018年時観光客入込数にて試算)</li> <li>➤ 観光客がレンタカーを活用することで発生している慢性的渋滞を可能な限り低減させるため、観光2次交通の利便性向上等に向けた取組が必要。</li> </ul>
R7取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>企業勤務者に対し、複数次に渡るWSを開催</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>幹線道路に隣接していて、比較的大きく、行動変容による効果が期待できる企業を検討</li> <li>主なテーマは通勤に関する理想の姿、アクション。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ アンケートにより観光客（移動困難者）目線の意見を収集</li> <li>主なテーマは観光周遊における理想の姿、アクション。</li> </ul>

## 事業スケジュール(案)

	内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国	沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議											
県	企業勤務者WS				● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							
県	アンケート					● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●						
県	PI結果分析								● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●			

## 令和8年度実証例 (現時点イメージ)

- ① 行動変容に向けた活動(機運醸成・研修活動等)
  - ② ①は、その他社会実証事業と同時期に実施を想定